

現代人は貴族顔？



徳川家康が元亀三年十二月、武田信玄に三方ヶ原の合戦において敗れ、ほうほうの体で浜松城に逃げ帰ったとき、後の自戒のために書かせたといわれる肖像画が残っています。目を大きく見開き、口を真一文字に結び、敗戦のショックに打ちひしがれている表情が描かれています。この家康の顔は、戦国時代当時の庶民型に近い寸詰まりの丸顔と

分類されています。



この初代家康顔の特徴は中世期末の庶民と大差がなく、いまだ貴族化の特徴が明らかになっていません。ところが、その後6代家宣などを経て、後期の12代家慶、14代家茂に至ると、当時の庶民にほとんど見られない顔に変化してきます。

江戸時代の庶民は、新旧いろいろなタイプの顔が入り交ざっていました。一方は少数ながら中世期の特徴を残した頭蓋は長頭型、丸顔で、鼻は低く、反っ歯の強い人たちが、十辺舎一九作東海道中膝栗毛の挿絵、原の駅：落合芳幾画にその特徴が認められます。



そしてもう一方は、頭蓋は中頭または短頭型、面長、鼻は高く、反っ歯の弱い人たちで、東海道五十三次之内原の図、香蝶楼国定画（三代豊国）、原の駅（美人東海道）深斎英泉画、東海道五十三次図会十四、原（美人東海道）初代歌川広重画にその特徴が描かれています。



徳川氏は15世紀の中ごろ、岡崎付近で勢力を持ち始めた土着の武士に始まり、家康が16世紀はじめに初代将軍になってから二百数十年を経て慶喜に引き継がれてい中で、後期の将軍では頭蓋は短頭型か中頭型、鼻すじの通った高く隆起する鼻、顔の幅は狭く、長い顔へと変化していきます。このような顔は、上顎と下顎の発育が悪く、咬筋、側頭筋等の咀嚼筋の発育も弱く庶民とは大きく違う特殊な形質的特徴として挙げられています。現在、歴代徳川将軍の貴族化については、二つの理由が考えられています。ひとつは将軍婦人の選定という遺伝的な理由によるものであること。ここでは解説を省略します。二つ目の理由は、徳川将軍の非庶民的な生活、特に特殊な食生活で、このことは咀嚼器官の弱体化、さらに歯の咬耗、磨耗が認められないことが歯科的な問題として挙げられます。

将軍の食生活は維新後旧事諮問録（旧東京帝大史談会編）から当時の様子うかがい知ることができます。食事は料理人が作ったものを、毒見役が安全を確かめたうえで膳に盛り付けられ運ばれてきます。この間、約10人の手を経て運ばれる将軍の食事は冷め切っていたと考えられています。また、その食事内容は豆腐や鶏卵を主としたもののほか、魚、例えばかつおの刺身は、生臭さや脂肪を抜くため一切れつつ水で洗い、身が縮んでアライのようであったようです。獣肉はほとんど食膳に上らず、そのほか硬いもの、歯ごたえがあるものは食膳に上がらないばかりか、食品もかむ必要がないほど柔らかく調理されていたようです。後期の将軍ほど咀嚼器官の発達が悪かったり、老年になっても咬耗磨耗がなかった理由に挙げられていることがこれらのことからわかります。

あなたは、このように歴史が語っている事実を、どう考えますか？